

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ一般社団法人

内容

日本のオペラをより楽しく観るためのワークショップ

プロのオペラ歌手による「本物の歌声」を通して子ども達に人間の声の持つ力の可能性を身近に感じてもらふことをワークショップの目的とする。この度の巡回公演では日本人の作曲家林光によるオペラ「おこんじょうり」にちなんで、ワークショップでもそれに繋がるプログラムを行います。

企画①狂言の基本的な所作（摺り足）を子どもたちに指導し、体験してもらいます。狂言は日本の伝統文化であり、堺シティオペラの邦人作品の演出にも度々取り入れており、本公演の「おこんじょうり」も狂言師・茂山千三郎氏の演出を土台としています。狂言の基本の歩き方である（摺り足）を経験することによって子ども達が日本の文化を知る貴重なきっかけとなり、初めてのことに挑戦する喜びになることと思います。

企画②状況が許せば「おこんじょうり」の作曲者・林光の Song「かっぱ」を子ども達に歌唱指導をし、全員で歌います。

舞台上で通用する日本語の発音や日本語特有の美しさを伝え、更に歌の世界を想像し、表現することで音楽の世界に遊ぶ楽しさを感じる機会となるよう指導します。

これらの企画から子ども達が日本文化と日本のオペラに親しみを感じ、本公演への期待が高まるようワークショップを進めてまいります。

また、コロナの状況次第ではありますが、ワークショップでの成果を生かすべく本公演では子ども達の摺り足の発表の機会や

「かっぱ」を歌うシーンを作るなど何らかの形で公演に参加し、作品と一緒に創り上げる経験ができるよう考えています。

企画③オペラ歌手が実演を致します。マイクを通さない、身体から響く人間の声による演奏を間近で聴く体験は子ども達の情操や知識を豊かにするものであると確信しています。

タイムスケジュール（標準）

標準 90分ワークショップの場合

- [15分] 挨拶・団体紹介・講師紹介
- [35分] 狂言風すり足体験＋レクチャー
- [10分] 休憩
- [15分] 発声講座＋歌の稽古
- [10分] 質問コーナー
- [5分] 挨拶

派遣者数

歌手 3～4名・ピアニスト 1名・公演スタッフ 1～2名 [合計 6名]

学校における事前指導

15分程度の公演演目紹介とオペラとは何かのビデオ（YoutubeリンクかDVD）を事前に送らせていただきます。ホームルームの時間などで児童・生徒さんと一緒に鑑賞をして頂きたいと思います。また発声講座で取り組む曲を事前に聞いていただければと思います。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ一般社団法人

演目

オペラ「おこんじょうるり」～堺シティオペラオリジナルバージョン～
原作:さねとうあきら 作曲:林 光
演出:茂山 千三郎
演出補助/構成:坂口 茉里

派遣者数

出演者・音楽スタッフ 9名
舞台スタッフ 11名

合計 20名

タイムスケジュール（標準）

[標準 90分の場合]
[5分] 挨拶・演目紹介
[55分] 公演
[5分] 休憩
[20分] Q&A コーナー
[5分] 挨拶

実施校への協力依頼人員

特になし

演目解説

《あらすじ》 昔ある村に、ひとりぼっちで目の見えない病気のいたこばばさまがいた。その家に腹をすかせた“おこん”というお腹をすかせた子ぎつねが餌を盗みに忍び込んだ。だが、ばばさまはじんざからもらったなけなしのお弁当まで食べさせた。きつねは感謝し、じょうりの念力で、ばばさまの病気を治してやった。それから二人は助け合って暮らし始めた。ばばさまはおこんのじょうりに合わせて口を開け、ばばさまが語っているように見せかけた。ばばさまの神通力がうわさとなり、お姫様の命を救った。そして殿様から褒美をいただいた。その帰り道、盗賊に襲われ、おこんはばばさまの身代わりとなって死んでゆく・・・

オペラ「おこんじょうり」は、日本を代表する作曲家の一人である林光氏が作曲しました。日本のクラシック音楽と古典芸能芸術を融合させた演目です。日本人の持つ“和”の心や日本の古くから伝わる独自の文化をオペラの演奏を通じて表現しています。オペラは音楽、文学（台本）、演劇（演出）、美術（舞台美術や衣装）、舞踏など複数の分野の芸術の混在によって創造される一つの統一された総合芸術であり、一度に様々な分野の芸術に触れ合う事が出来ます。

「おこんじょうり」は日本の創作民話をベースにしており子どもたちも馴染みやすい作品です。また昔話という事もあり日本の伝統的な物がステージの上で息吹を吹き込まれ、歌と演劇を通して現実に存在するものとなります。

寂しいもの同士が、運命的な出会いにより一時幸せな暮らしを送るが、最後は悲劇的な結末でありながら、心温まる感動的な結末の物語。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

専門的なトレーニングを積んでいない子ども達でも気兼ねなく“歌”を通してオペラ公演に参加していただきます。難しい演技や歌唱を求められる事はなく、事前のワークショップを通して歌を覚えていただき、当日の舞台に於いて発表していただく形になります。（新型コロナウイルス感染症対策のため、鑑賞している位置から動かずに歌で参加出来る形を取ることも可能です。事前相談の時に参加のスタイルを決めて頂けます。）公演直前には鑑賞しているだけの子ども達が、見ている席で参加できるように、簡単な合唱指導を公演に先立って行い、演奏中に全校生徒でキャストの演唱と共に歌います。

児童生徒とのふれあい

公演終了後に出演者やスタッフと児童生徒が触れ合う時間を設け、Q&A コーナー、鑑賞したオペラ、職業としてのオペラ歌手・音楽家についての質問を受け付けます。また演奏時以外も各々が積極的に「おはよう!」「こんにちは!」など、声かけを欠かさず行っております。